

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490500184		
法人名	合資会社		
事業所名	三重福祉会 グループホームなごみ苑		
所在地	津市豊ヶ丘2丁目4-5		
自己評価作成日	R5年2月4日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2490500184-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2490500184-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 5 年 2 月 13 日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活空間と日常支援、日々に必要な生活行動をスタッフと家族関係に近い支援を行っている。また、地域の自治体に所属し、地域活動やイベントへの参加をしている。職員に看護師が所属しており、知識の共有や、指導ができる。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伊勢自動車道芸濃インターチェンジから東へ10分の大型住宅団地にある家庭的な雰囲気や安心感が魅力の事業所である。事業所理念の(利用者様本位の生活と和みある支援)の実践に向け、管理者職員は利用者の情報を共有しながら利用者目線で支援をしている。協力医や看護師との連携が良く、利用者や家族は安心である。利用者はテーブル拭きや掃除、花や野菜の水やり、散歩、作品作り、レクリエーション等自分のペースで生活をしている。コロナ禍でも運営推進会議を開催しており、関係者との情報交換が出来ている。管理者・職員は、医師・看護師・自治会長・民生委員・市介護保険課・地域包括支援センター等の関係者や利用者家族の協力により、利用者が安心して生活出来る事業所を目指して支援をしている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ全体の理念及びなごみ独自の理念を事務所、台所に掲示している。	理念である「利用者様本位の生活と和みある支援」を、玄関・事務所・台所の職員が目につきやすい場所に掲示し、情報を共有しながら利用者の支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治体に所属しており、コロナ禍の為、夏祭りや公園の掃除、幼稚園の行事参加は控えているが、回覧板をまわしたり、安否確認の黄色い旗を掲げたりの参加はしている。	自治会に加入しており、回覧板で地域の活動を把握している。公園の清掃活動や地域の防災訓練に参加をしたり、安否確認の黄色い旗を掲げたりしている。地域の方と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での話し合いにより、地域へ情報配信や自治会の行事に参加することで、認知症への理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の自治会長、市役所(介護保険課)、包括支援センター、民生委員の参加で2か月に1回困りごとなどの意見交換を行っている。	自治会長・民生委員・市介護保険課・包括支援センターので参加で、年6回開催した。コロナ禍で短時間の会議となっており、意見交換と現状報告に終わっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に運営推進会議の参加の依頼をし、ホームの運営に努めている。	運営推進会議開催時や、介護認定申請時等書類提出時に訪問し、相談や現状の報告をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全の為、玄関の施錠はしている。身体拘束委員会を立ち上げ代表者会議やスタッフ会議により、3ヶ月に1回勉強会を行っている。	3ヶ月に1回、身体拘束委員会を開催している。また、3ヶ月に1回、身体拘束や言葉による拘束について研修をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	メディアの情報など、身体拘束委員会で、情報共有をして、スタッフ会議や代表者会議で議論している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者はいない。知識が薄い為、今後の為にも新しい知識を得る様にしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と時間をとり、理解と納得を得たうえで、契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、電話や面会時に直接スタッフに伝えてもらう事が多く、苦情には速やかに対応している。	玄関に意見箱が設置してあり、面会時や電話で意見や提案を聞くようにしている。家族からの意見や提案を事業所の運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや代表者会議、スタッフ会議での意見交換、業務日誌、全体ノートなどの活用にて、全員が周知徹底出来る様にしている。	それぞれの会議や日常の会話で意見や提案を聞いて、事業所の運営に活かしている。管理者は話しやすく気軽に意見が言える環境づくりを心掛けており、職員の意見で介護ベットの使用が可能になった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各個人の意見などを取り入れ現状に活かし、各自の向上心を持って働けるような施設を作っている。勤務希望を聞き入れたりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部から受講内容を上げてもらっており、受講する機会を設けているが、コロナ禍の為外部への研修は出来ず、ZOOMでの参加となっている。またスタッフ会議にて勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループでの交流は、山水相談室を設け他施設との交流、実務調査を兼ねての訪問など、積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者にも施設見学をして頂く。施設見学が困難な場合は、実務調査を行い、家族や本人と十分に話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や面会時の時には、ご家族の思いに耳を傾け、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族から話を聞き、何を求められているのかを知り、サービスに繋げるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存能力を活かし、職員が寄り添いながら一緒に暮らす姿勢で支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や必要時の電話連絡の際に利用者の様子を伝えたり、相談を行いながら、職員と一緒に利用者を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為外出は控えている。面会は短時間、検温や消毒の徹底を行っている。	コロナ禍で外出は出来なかったが、外食や墓参りに連れて行く家族はいる。回想法を利用し、昔話を聞きながら関係継続の支援に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係が円滑になるようにスタッフが見守り、関わり合える様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了後も必要に応じ、相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や思いを傾聴し、意向に添えるように努めている。また困難な場合は、本人の表情や行動を見ながら対応したり、必要に応じて家族にも支援をお願いしている。	利用者に寄り添い、何気ない会話や表情・行動から思いや意向を把握している。また、個人カルテやケアプランを活用し、情報を共有しながら支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人一人の生活歴や今までの暮らし方を把握して生活環境を整え安心し、その人らしい生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カルテに記載。申し送りで共有し、個人の心身状態を把握して生活環境を整え安心してその方らしい生活ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態の観察を行い、小さな変化にもスタッフ間で報連相を行い、ケア会議を行いその時々々の現状に応じた介護計画を作成している。	各担当者が個別処遇申し送り事項を記入している。毎月職員全員がモニタリングに参加し、私が出来る事出来ない事シートを作成して利用者の情報を共有している。3ヶ月毎に見直しを行い、医師・看護師の意見を聞いて介護計画の作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテの記録に内容の実践、取り組み、気づきを記入し、スタッフ同士で情報共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	連携病院があり、急変時には連絡がとれ、対応することが出来る。同グループ内での移動も可能。マニュアルに束縛されず柔軟性を持って個々の希望に沿ったサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域保育園の行事参加は出来ない状態であるが、地域の歯科の利用、長年お付き合いしている床屋の利用はあり。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と緊密に関係を築き、受診、月2回の往診、夜間の急変時にも対応して頂けるようにしている。	3名が協力医で、月2回の訪問診療を受診、1名は従来からのかかりつけ医で診療を受けている。24時間対応の協力医と看護師がおり協力体制が整っていて、利用者・家族は安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に相談、往診時にも相談や指示が仰げる体制がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護情報書を作成し、情報の共有が出来る様にしている。利用者の入院時は、安心して治療に専念できるように家族、病院関係者と情報交換し、早期に退院できるように関係作りに取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族へ報告、緊急時の対応など早い段階で報告相談、更に毎日の申し送りにて緊急時の対応をスタッフに伝え、周知させている。また協力医への報告もしており、万が一の連絡も確保している。	入居時に看取りに関する同意書を取っている。重度化した場合には、協力医との話し合い・医師の指示・家族からの要望により、入院や介護保険施設への入所、事業所での看取り等について決めている。協力医は24時間対応。	看取りに関する指針について見直しを行い、医師・看護師・ケアマネージャー・介護職員で、重度化や終末期の利用者への対応や看取り介護について協議し、職員全体で看取りについての共通認識を持つ事を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医のもと、急変時の対応を管理者、看護師及びスタッフで話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている。備蓄にレトルト食品等用意している。自身に関しては、地区で行うシェイクアウト訓練等実施(年2回)	年に2回、夜間火災想定訓練と避難訓練等の防災訓練を実施し、年に2回、自治会の防災訓練に参加をしている。防災用品の設置や水食料等の備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護をしているのではなく、お世話をさせて頂いているとの精神で一人一人の人格を尊重し、その方の性格等把握し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている。	利用者個々の人格を尊重しながら、利用者への対応をしている。トイレ誘導時や入浴時は利用者にそっと寄り添い、常に優しい声掛けや丁寧な言葉遣いでプライバシーやプライドを損なわないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が気兼ねせず、希望や思いを発言できるように働きかけ、自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、一人一人の体調・気分を把握し、その日どのように過ごしたいか本人の希望に沿った支援を心掛けている。レクも全職員で参加している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類に季節や過度なことが無い限り、個人のことに合わせて支援している。2か月に一回訪問理容をしており、好みのカットを受けて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ごはん・汁物は職員で調理、副食は業者に依頼。食事のメニューを書いて頂いたり、可能な限り利用者様とテーブル拭き、準備、下膳、行っている。行事の時には、一緒に作り楽しんでもらっている。	業者の献立で業者発注のレトルト食品を調理し、盛り付けをしている。ご飯と汁物は職員が作って提供している。毎日のメニューは利用者が書いて掲示している。手作りの行事食や利用者と一緒に作るおやつを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人が食べる量・水分量を記録し、体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立できる利用者様にはお声掛けで促す。支援の必要な方は見守り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立で排泄できるかの見守りと介助が必要な方の排泄の表を使用し把握を行い、個々の能力に応じた排泄援助を行う事で、出来るだけ自立に向けた支援を行っている。	自立排泄が困難な利用者が1名いたが、本人の機能の観察と薬の調整により自立で排泄出来るようになった。現在4名が自立で排泄が出来る。リハビリパンツ4名(内1名パット併用)、夜間のみ紙オムツ使用が1名いる。プリストルスケールで便の状況を確認することとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	協力医と相談して、個々に応じた便秘予防と対応を行っている。必要に応じ、漢方薬や下剤服用で、調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調などを十分に観察をして入浴への声かけをしている。ゆず湯など季節も感じられるよう取り入れている。	週に3回、月曜日・水曜日・金曜日の午前中に入浴をしている。希望があれば午後に入浴も出来る。季節感のあるゆず湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や十分な睡眠がとれるように、状況に応じた衣類・室温調整を行い安息を知って頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化に気を配り医療連携を基に常に往診時、薬剤師・協力医・スタッフと共有して服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフと一緒に楽しむことにより信頼関係を築き、レクで作成や食事やTVで気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出できていない為、晴天時には玄関先のベンチで過ごしたり、気分転換を図っている。天候や気温によっては近くを散歩したりしている。面会も検温、アルコール消毒、来苑者問診表などを使い対応している。	コロナ禍で外出に制限がある中、4月に桜の花見と辰水神社へ初詣に行ったり、事業所周辺の散歩をしている。畑の花や野菜の水やりをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様で管理のできる方には所持していただいているが、コロナ禍で外出でお金を使う様にしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話連絡は本人の希望に応じ、いつでも電話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は利用者様や面会に来られた方が不快な思いをさせることなく音量や障害物に配慮し、観葉植物の配置や季節を感じられるような物品の配置を行い居心地よく過ごせるように努めている。	居間兼食堂は広くて採光も良くとても明るくて過ごしやすい。利用者と職員が作成した季節の作品や行事写真が掲示してある。ソファが設置してあり利用者が寛げる共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席の考慮と空間づくりをしており、制作の展示や行事の写真を展示している。それぞれの居場所(食堂・居間)でゆったり過ごせるように腰掛やテーブルを配置し、自由に居心地よく過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人に合わせて、ベッドの配置や棚の配置、飾りをして頂いている。使い慣れた家具を置き、温度や湿度に気をつけてゆっくり過ごせる自室となっている。	エアコン・ベット・タンスが設置してあり、使い慣れた家具や衣装ケースが置いてある。また、写真を掲示している利用者や本を置いている利用者がある。掃除も行き届き、清潔で居心地の良い居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人に応じて居室の配置、名前による目印を使用し、迷いによる不安がないようにしている。利用者様の安心・安全に心掛け、日時が分かる様にカレンダーを配置、階段には手すりをつけ、その方の能力に応じたスタッフの見守りを行っている。自立した生活が出来る様に環境作りを行っている。		